

令和5年度 学力スタンダード指導計画・報告書

教科：（ 国語 ） 科目：（ 現代文B ） 対象：（第3学年 1組～ 5組）

科目担当者：（ 須田 ： 山本 ）

教科・科目の 指導目標	○授業改善により、生徒の国語への興味・関心・意欲を高めさせ、自ら学ぶ姿勢を育てる。 ○文章を読んで構成を的確にとらえ、その展開を整理する力や、それらが要旨を伝えるために果たしている効果をとらえる力を高める。 ○語句の意味や用法を的確に理解し、語彙を豊かにして言葉による表現力を高め、自らの表現に生かすこと。 ○文章を読んで、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、書き手の意図を考察する力を高める。
----------------	---

	高校入試等の分析結果・前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	1) 漢字の読みと書きでは、依然として読みの正答率の方が高い。また、語句の意味や用法の理解に課題がある生徒が多く、語彙力の向上が必要とみられる。 2) 小説に比べて評論の読解力が弱い。文章を論理的に考えて読むこと、論理的思考力に課題がある。 3) 小説では、人物の心情を的確にとらえきれていない傾向がある。人物の行動や場面の情景などから、心情をとらえる能力の向上が必要と考えられる。	1) 2年次も引き続き、授業内で漢字小テストを定期的実施するなどして、漢字検定3級程度(中学校卒業レベル)の漢字能力を定着させる。 2) 評論文の指導では、論理展開に注目し、各文章・段落の結びつきを理解させることで、筆者の論旨を読み取らせる。 3) 日々の授業から「書くこと」に慣れさせ、基礎的な文章表現力を身につけさせる。テストの際にも例文作成や要約などを出題し、適宜添削指導していく。	漢字の副教材を使用し、朝のSHR前の朝学習や授業内、宿題で書き取り練習を行う。漢字の小テストは成績に反映させる。また、長期休暇明け等に確認テストを行う。 論理的に文章を読むことを意識させるため、評論・小説それぞれについて、読み方の指導を充実する。また、論理的思考力を表現力にも生かしていくため、「書くこと」を中心とした表現についての指導も適宜行っていく。 定期テストは各授業担当者ごとに作成する。 小論文指導を定期的に行い、作文能力の向上を図る。 図書館を活用した授業を行うなど、読書に親しむ機会を作る。

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			